

## 4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

### （1）過去5年間の報告状況

疾患名	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)
性器クラミジア感染症	251	272	267	274	284
性器ヘルペスウイルス感染症	291	300	285	277	257
尖圭コンジローマ	58	86	65	86	79
淋菌感染症	52	52	60	42	59
性感染症報告数 小計	652	710	677	679	679

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	321	283	269	258	276
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	14	7	5	3	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	1	0	3
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	336	291	275	261	282

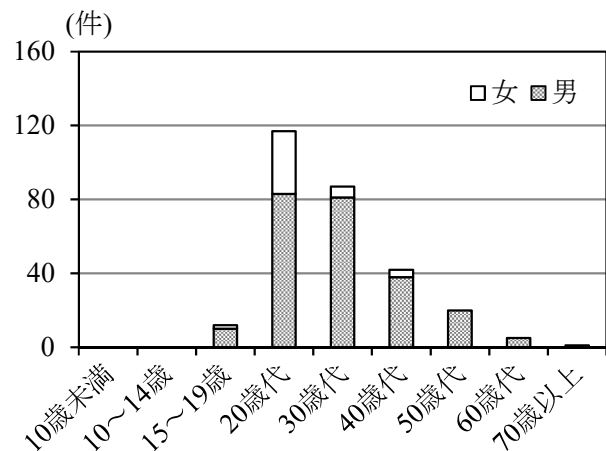
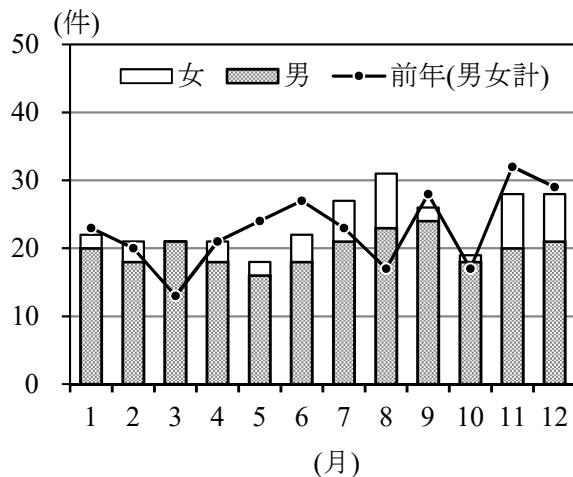
### （2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は679件で、前年（679件）と同数であった。過去5年間では、約650～700件の範囲で推移している。男女別では、男性442件（前年379件）、女性237件（前年300件）と、男性の報告数は前年より増加し、女性の報告数は減少した。

疾患別では、性器クラミジア感染症（41.8%）、性器ヘルペスウイルス感染症（37.9%）の割合が非常に多く、次いで尖圭コンジローマ（11.6%）、淋菌感染症（8.7%）の順に多かった。

#### ① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



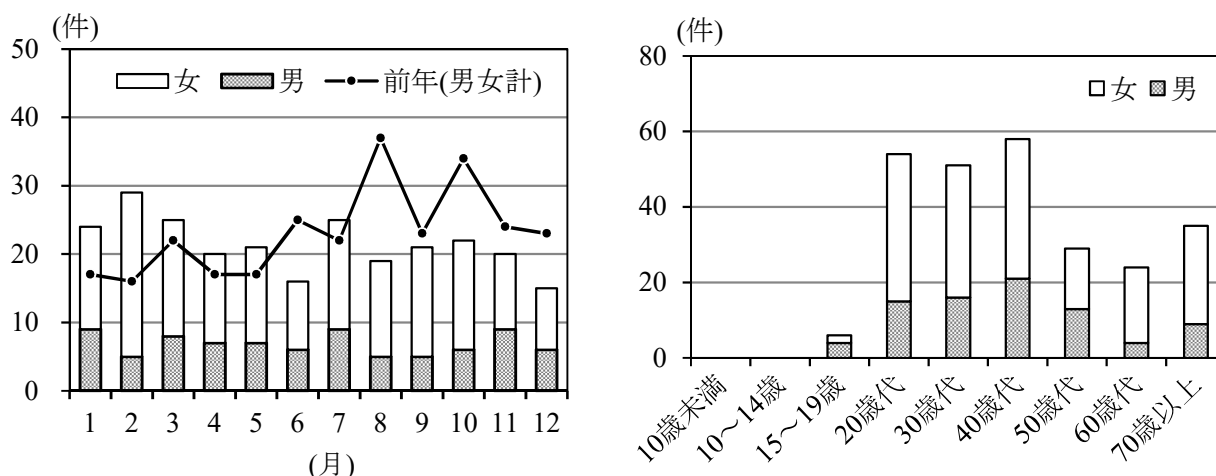
2019年の年間報告数は284件と、前年（274件）とほぼ同数報告された。過去5年間の年間報告数も約250～280件と、ほぼ横ばいで推移している。

月別報告数においても、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告された。男女別では、男性 238 件（前年 212 件）、女性 46 件（前年 62 件）と男性、女性の比は前年とほぼ変わらず、全体では男性（約 84%）が多くを占めた。

年齢別報告数では、10 歳代 12 人（4.2%）、20 歳代 117 人（41.2%）、30 歳代 87 人（30.6%）、40 歳代 42 人（14.8%）、50 歳代以上 26 人（9.2%）と、20 歳代、30 歳代からの報告が多かった。

## ② 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



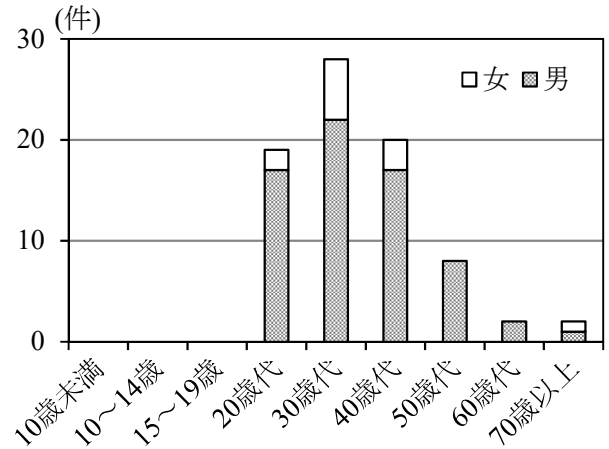
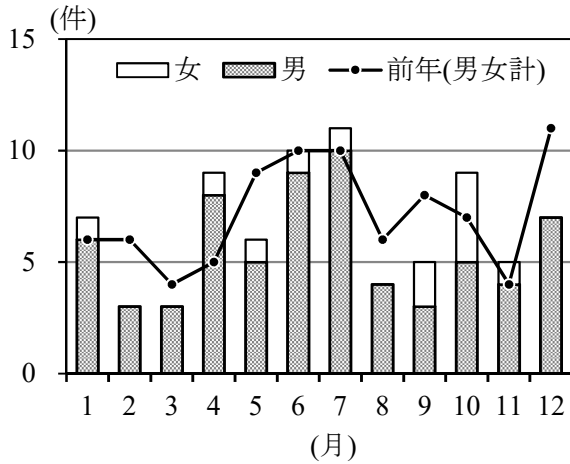
2019年の年間報告数は 257 件と、前年（277 件）と大きな変化はなかった。月別報告数推移でも、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告された。男女別では、男性 82 件（前年 58 件）、女性 175 件（前年 219 件）と、男性は前年と比べ報告数が増加、女性は減少した。

また性感染症全体では男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約 68%を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高いのが特徴である。

年齢別報告数は、10 歳代 6 人（2.3%）、20 歳代 54 人（21.0%）、30 歳代 51 人（19.8%）、40 歳代 58 人（22.6%）、50 歳代 29 人（11.3%）、60 歳代 24 人（9.3%）、70 歳代以上 35 人（13.7%）と、幅広い年齢層から報告された。また、60 歳以上の高齢者からの報告数が 23.0%と他の性感染症と比較して多い傾向が見られたが、潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

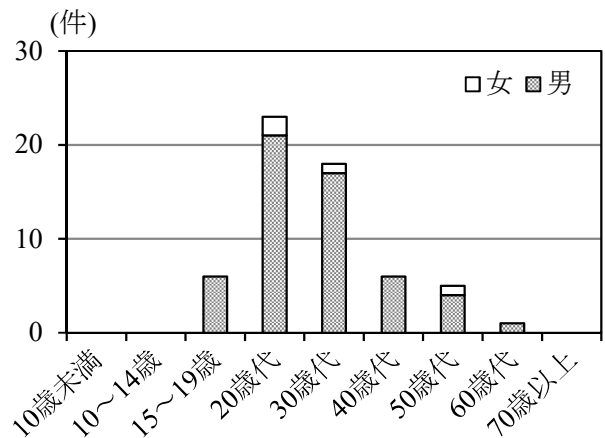
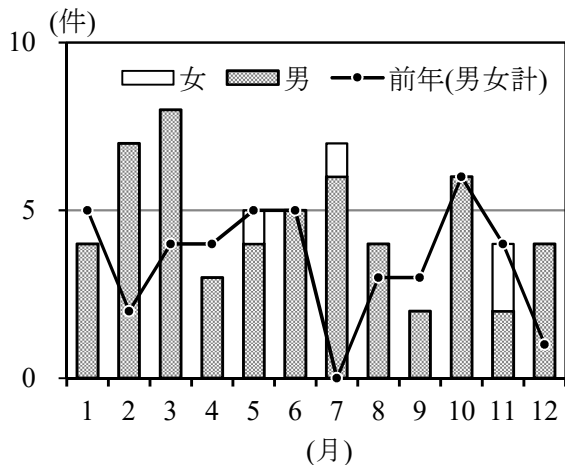


2019年の年間報告数は79件と、前年(86件)からやや減少した。男女別では、男性67件(前年69件)、女性12件(前年17件)と、前年と比べ男性・女性ともに報告数が減少し、全体では男性(約85%)が多くを占めた

年齢別報告数は、20歳代19人(24.1%)、30歳代28人(35.4%)、40歳代20人(25.3%)、50歳代8人(10.1%)、60歳以上4人(5.1%)と、20~40歳代からの報告が、全体の約85%を占めた。

④ 淋菌感染症

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



2019年の年間報告数は59件と、前年(42件)から増加した。男女別では、男性55件(前年40件)、女性4件(前年2件)と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約93%を占めた。

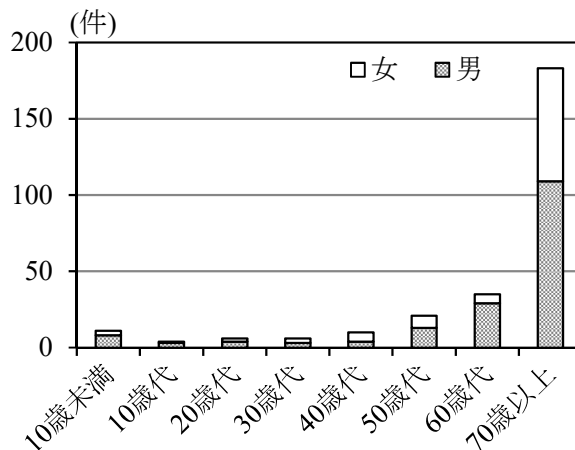
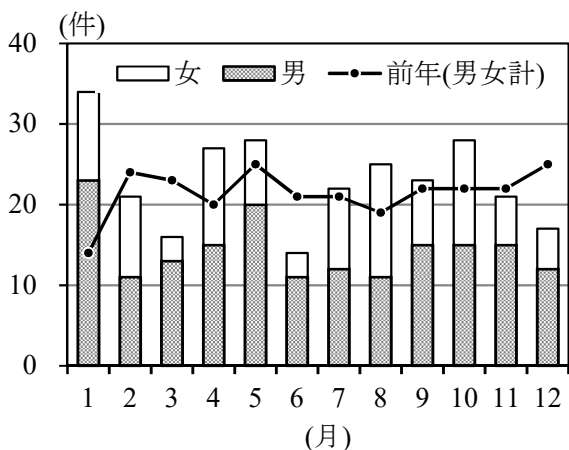
年齢別報告数は、10歳代6人(10.2%)、20歳代23人(38.9%)、30歳代18人(30.5%)、40歳代6人(10.2%)、50歳代6人(10.2%)であった。他の性感染症と同様に、20~30歳代の割合が高く、全体の約70%を占めた。

(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は 282 件で、前年 (261 件) から増加した。疾患別の届出数においては例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半 (約 98%) を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

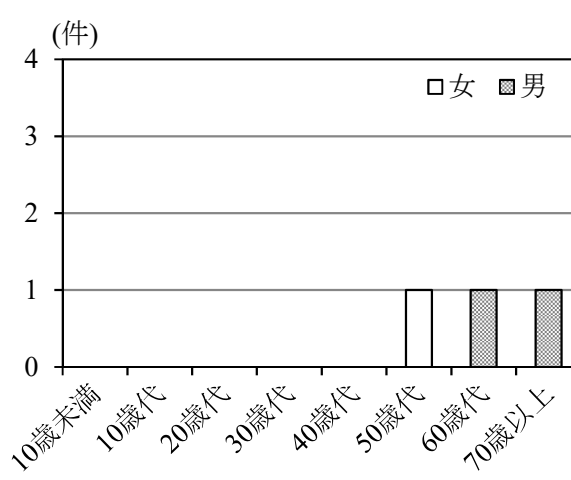
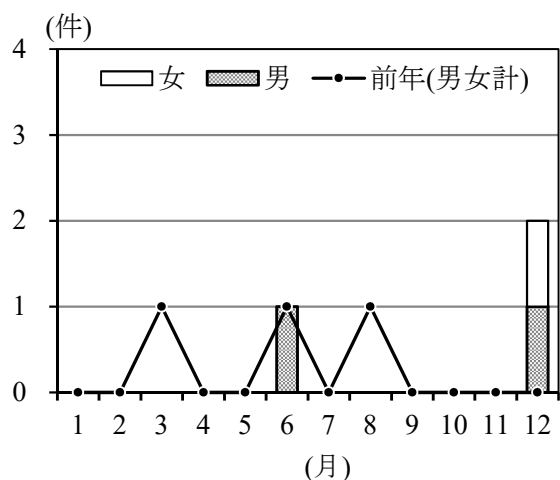


2019年の年間報告数は 276 件 (男性 173 件、女性 103 件) であり、前年 (258 件) からやや増加した。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず年間を通じて報告され、男女別では、前年同様に男性が女性より多く報告された。

年齢別報告数は、10歳未満 11 人 (4.0%)、10歳代 4 人 (1.5%)、20歳代 6 人 (2.2%)、30歳代 6 人 (2.2%)、40歳代 10 人 (3.6%)、50歳代 21 人 (7.6%)、60歳代 35 人 (12.7%)、70歳以上 183 人 (66.3%) と、60歳を超え年齢が高くなるにつれ大きく増加した。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

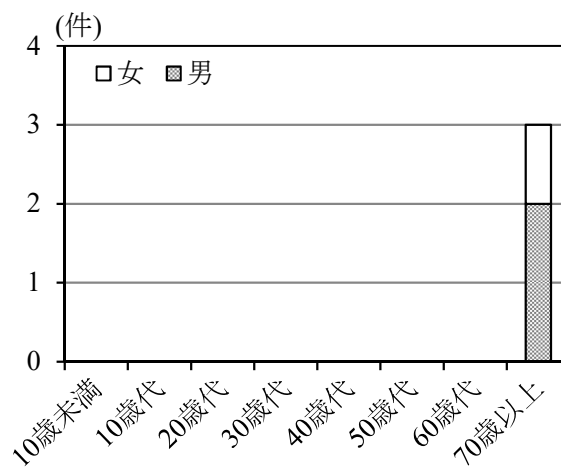
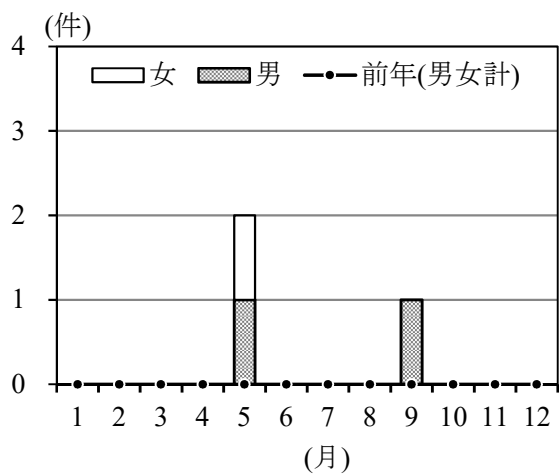


2019年の年間報告数は 3 件 (男性 2 件、女性 1 件) と、前年 (3 件) と同数報告された。

年齢別報告数では、50歳代、60歳代、80歳代から各 1 件の報告があった。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



2019年の年間報告数は3件（男性2件、女性1件）と、前年（0件）より増加した。いずれも70歳代以上の報告であった。過去5年間では、毎年0～1件の届出数で推移している。